

拓たる 西別院だより

降 誕 会 号

親鸞聖人童形像について



親鸞聖人童形像（京都・日野誕生院）

親鸞聖人は、一一七三（承安三）じょうあん年にお生まれになりました。

ご誕生の地については確実な伝記はありませんが、聖人が日野家出身（父は日野有範）であることから、日野家の領地などがあつた日野の里として伝えられています。

京都伏見（東南部）の日野には日野誕生院があり、そこに親鸞聖人の幼少を偲んで作られた「宗祖童形の立像」（写真）があります。

◆日 時

5月16日(日)

- 10:00 宗祖降誕会
初参式
法話
お楽しみ抽選会
- 12:00 終了
- 13:30 宗祖聖人月忌法要

**2004
平成16年**

親鸞聖人 降誕会

◆場 所 小樽別院仮本堂

※法要ご参拝の方には、記念品をお渡し致します。
※書・絵・華を展示します。

5月16日(日)は月忌参りをお休みさせていただきます。

宗祖降誕会について

浄土真宗を開かれた親鸞聖人は一一七三（承安三）年五月二十一日（旧暦で四月一日）、京都伏見の日野の里でお生まれになりました。

日野の里では、江戸時代からご誕生をお祝いする行事が行われていたようです。本願寺においては、一八七四（明治七）年五月二十一日、第二十一代明如上人（みょうじょうにょじん）によっていとなまれました。さらに、一八八二（明治十五）年には、「論議」作法が行われ、普通教校（龍谷大学の前身）では学生がご誕生をお祝いするつどいをもち、明治二十年以降、全国のお寺でも降誕会をいとなむようになりました。

現在、本願寺では親鸞聖人のご誕生をお祝いして五月二十日、二十一日の両日ご法要がおつとまりになります。また併せて園児のつどい・雅楽献能会・祝賀能・茶席などの行事が催されます。



小樽別院では、少しでも多くの方々にご参拝頂きやすいようにと、毎年五月二十一日に近い日曜日に降誕会法要を執り行っており、今年も五月十六日に修行いたします。また法要に引き続き記念法話・初参式・お楽しみ抽選会並びに、毎年恒例の園児による絵画の展示・双葉高校の学生による書道と華道の展示・お茶サークルによるお茶席もごございますので、皆様お誘い合わせでのご参拝をお待ちしております。

二〇〇四年（平成十六年） 年忌表

法要についてのお願い

●法要をご予定の際には、日取りを事前に別院とご相談の上、お決めください。さいますようお願い致します。

●別院にて年忌法要を執り行われます場合は、使用冥加金一万円を申し受けます。

- 一周忌 — 平成十五年
- 三回忌 — 平成十四年
- 七回忌 — 平成十年
- 十三回忌 — 平成四年
- 十七回忌 — 昭和六十三年
- 二十五回忌 — 昭和五十五年
- 三十三回忌 — 昭和四十七年
- 五十回忌 — 昭和三十年

法話 他力本願とは

めぐちゃん 「ねえ、ねえ、お父さん。他力本願って なあに？」

父さん 「なんだ、むつかしいことを聞くなあ。そんなこと、他人まかせにしないで、自分で調べなさい」

めぐちゃん 「あつ、あつた。他人の力をあてにすること…」

父さん 「そつ、そつだよ。他人まかせにすることを、《他力本願》っていうんだよ。世の中、何でも自分で努力しなくっちゃ。他人の力をあてにするなんてダメなんだ！」

めぐちゃん 「でも、もう一つ意味があるよ。仏さまの力…つて」

父さん 「ああ、そんなこともいうなあ。おまえも受験するとき、ちゃんと合格祈願にいかないとなあ。実をいうとお父さんも、宝くじを仏壇にお供えしてるんだ」

めぐちゃん 「それつて他人まかせじゃないの？」

じいちゃん 「おいおい、おまえさんたち、願い、願いつて、自分のたちの願いのことかい。《他力本願》つてい

うのは仏さまからの願いなんじゃよ」

めぐちゃん 「ええつ、仏さまの願い？」

じいちゃん 「そうじゃよ、仏さまはすべての人を、必ず救いたいと、願われているんじゃよ」

めぐちゃん 「すべての人つて、私のことも？」

じいちゃん 「そうじゃよ。おまえのことじゃよ。迷っている人を必ず救うというのが仏さまの願いなんじゃよ」

めぐちゃん 「ふん。でも、私、迷ってなんかいいわよ。迷いつてなあに？」

じいちゃん 「ワシらの願いは、かなわなくても、かなつてもキリがないんじゃ。それを迷いというんじゃよ」

めぐちゃん 「へへえ、お父さんはどう思う？」

父さん 「そつだなあ、願いにキリがないつていうのは分かる気もするけど、自分ではなかなか気がつかないよなあ。なあ、母さん」

母さん 「そつねえ。でも、気がつかないつていえば、朝日が差し込んでいるところだけにホコリが舞っていてピツクリすることがあるでしょ。何も無いと思つていても、光に照らされて、初めて見えてくる、迷いつてそついうものじゃないかしら」

めぐちゃん 「私、いつもお掃除してるモン」

じいちゃん 「ハハハ、掃除のことじゃないよ。仏さまの願いに照らされて、ホコリだらけの自分に気づかされるんじゃよ」

父さん 「ホコリを照らす光があ」

本堂修復懇志完納者ご尊名

(平成十六年四月五日現在)

●天井絵特別懇志

金貳百萬円

宮本 英子 高橋 米蔵 川上 正美 北川 紋二 猪田 格一 小紙 文隆 福島 正紘 竹田 榮治 寺澤 スガ 田村 ヒロコ 杉本 守巧

星野 ツヤ

三浦 幸子 川崎 正吉 高岡 フミ 松川 企一 近藤 英夫 牧田 全弘 星野 清成 中川 良一 星野 嘉雄 中屋 徳濃 白勢 ヨシ 野田 明

井田 長女

井上 勇 辻井 聡克 本間 静枝 東 信吾 山田 アサ 山口 庄次 坂野 澄 坂田 知子 石田 京子 本江 淳子 森谷 久子 清水 薫

藤原 昇

三浦 幸子 虎谷 賢一 藤沢 尚士 前田 幸一 西森キミ子 見延 昌治

花本 和夫

三箇 一弘 桶 ノブ 榎敷美恵子 近藤 ふじ 猪田 格一

坪田 節子

中嶋 知江 福井八重子 宮本 和彦 森谷 久子 山内 雅一 山下 法子 吉村 治彦 荒井 辰義 荒田 れい 石倉 利夫 石谷多美子 猪田 耕市 猪田 芳枝 今井百合子 岩船 寿 碓井 正 大野アイ子 亀山美恵子 中田 宏 鳴井 喬浩 林屋美智子 深川 正雄 藤野 信一 本間 昭吉 松原 良勝 新木 久子 荒木 宏 五十嵐タマ 宇野 信子 大浦 義教 大竹トモ子 大野 友暢 岡川 照男

金森 玲子

北村 潔 桑原 茂夫 伏黒 敬一 是安 正和 高瀬 一彰 高本 幹也 塚田 郁雄 辻 國夫 寺澤 スガ 中村 喜照 馬場 誠二 古澤 ミキ 本間 祥一 最上 英世 本江 正臣 山本 タマ 吉田 芳子 石田 博 岩山 豊 鷹野 正義 成田 治子 三浦 ユキ 岩井 良子 倉町 栄一 中川なを子 福村 要吉 大橋百合子 堀畑 義昭 水 上 進 宮本とし子 山岸勇之助 山口 庄次 鰐淵 誠

荒木 ミツ

梅沢 茂雄 小田 誠 小野寺一夫 高橋 甫夫 多賀美枝子 田中 秀雄 大門 治雄 西野 喜十 久木 まさ 平野 マキ 福井谷真理子 堀田 初子 安川 吉松 山口 昇 吉村 公乃 江上 幸一 大坂 敬一 大西 ヒデア 奥田百合子 川上 公 小林 薫 佐藤 又一 新出 廣 田宮 恭子 辻井 幸雄 中村 澄 東出 静子 本間 静枝 本間 正一 毛利 邦夫 八ツ井健二 吉川 常男

金壹百萬円

澤田 京子 早見 三郎 宇野 信子 小竹 一央 三箇 一弘 宮本 和彦 辻 啓子 白勢 ヨシ 本間 正一 西野 喜十 柴田 良雄 佐野 喜造 辻井富士男 田中 修次 宮本 みい 福村 要吉 中川なを子 佐藤 実 西田 正信

金六拾萬円

福川 イサ 島本 邦子 森 政一 岩井 良子 駒寄 初枝 辻井 幸雄 大野 友暢 今井百合子 奥田百合子 辻井 富男 佐藤 又一 亀山美恵子 花和 常三 松井美智子 堀田 初子 大西 公子 四方 薫三 五十嵐清彦 佐々木百合子

●門信徒懇志

金貳百貳拾萬円

北川 紋一 金七拾貳萬円 宮本 みい

金六拾萬円

牧田 盛夫 佐々木 茂 小倉 一徳 水上美枝子 関 藏 栗林 務 河田 安正 牧田 全弘 前田 清一 森 政一 猪股 喜行 辻 博子 飯田 英一 田倉孝恵子 秦 要 高橋 幸彦 齊川 明 齊藤 和也 福井谷高信 山田 孝造

金四拾三萬円

武田美代子 鈴木 計一 荒木美津子 石田 善久 伊藤スエ子 上野 正栄 沖田 ミヨ 加藤 正雄 川元 昇 木村ジュン子 近藤 英夫 齊藤 節子 佐々木百合子 紫竹 利雄 杉本 守巧 高橋 敏明 貴正 政行 辻 啓子 辻田キミ子

金四拾五萬円

瀧田 菊一

金八拾五萬円

平田 晴巳

金八拾萬円

安宅 淳 嶋田 善雄 猪田 昭司 福川 イサ 三井 昭 石墨 仁一

金八拾五萬円

井上 栄

金七拾萬円

井上 栄

金六拾五萬円

井上 栄

金四拾五萬円

井上 栄

金四拾五萬円

井上 栄

金四拾五萬円

井上 栄

佐伯 尚 山田 達治
木原 明 宮本 キミ
嶋 ウメヨ 竹脇 義洋
成瀬 澄子 栗林 榮一
荻野 美晴 坂下 郁子
松本 信雄 小林登喜子
堀 正勝 小林 修一
平木 昇 川崎 信一
竹内 カツ 夏伐 勲
砂長谷一雄
内田 チヤ
齋田 義孝
西田 清治
鯉沼 勇二
新井 重義
矢倉 君子
脇本 ヤイ
福井谷をり江
平田 博治
箱石 末雄
三上 勝博
佐藤トシ子
池田ひろ子
萩田ツヤ子
若松 英一
木谷 ツル
赤松 茂樹
北村 雄一
前田 郁子
牧 正起
山崎 善夫
加藤 浩
吉田 えい
風下 淳子
和田 憲一
清水 薫
宇野 克世
布村 元一

山田 達治
宮本 キミ
竹脇 義洋
栗林 榮一
坂下 郁子
小林登喜子
小林 修一
川崎 信一
夏伐 勲
金式拾萬円
中井 留子
小野田儀信
佐藤友伎子
白崎 義朗
瀬戸川鶴雄
長谷川好明
姫野美耶子
平山ツル子
杉本 禮子
永森 静子
名取美枝子
宮口 久子
多賀 修
脇本 悦子
花坂 健三
佛田家
高頭 妙子
岡部 満男
大野アイ子
吉田トネ子
佐藤久四郎
高橋 秀男
森 キミ
西村 君雄
宮崎 吉蔵
加藤 新一
小池 健二
宮崎 晴通
坂井テツ子
鹿島土師子

金式拾萬円
金參萬円
中野 政一
瀬川 お幸
関川 澄子
稱名寺(東京都)
岡 玲
小坂 達尚
内藤 良照
白川 了信
佐和田美希
武藤 幸久
常通寺(東京都)
松崎 美弥子
清水直次郎
金五万円
清水直次郎
金式拾萬円
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)

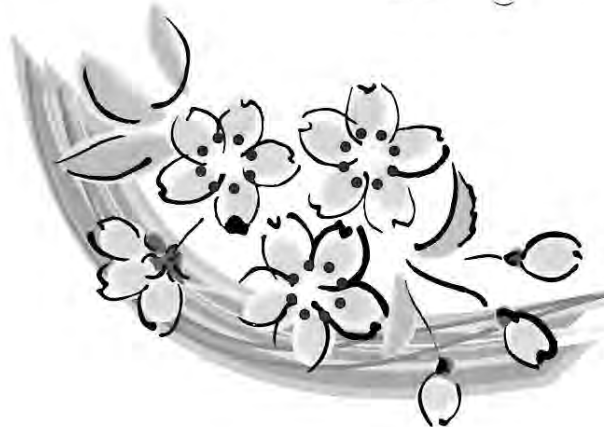
金式拾萬円
金參萬円
中野 政一
瀬川 お幸
関川 澄子
稱名寺(東京都)
岡 玲
小坂 達尚
内藤 良照
白川 了信
佐和田美希
武藤 幸久
常通寺(東京都)
松崎 美弥子
清水直次郎
金五万円
清水直次郎
金式拾萬円
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)

金式拾萬円
金參萬円
中野 政一
瀬川 お幸
関川 澄子
稱名寺(東京都)
岡 玲
小坂 達尚
内藤 良照
白川 了信
佐和田美希
武藤 幸久
常通寺(東京都)
松崎 美弥子
清水直次郎
金五万円
清水直次郎
金式拾萬円
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)

金式拾萬円
金參萬円
中野 政一
瀬川 お幸
関川 澄子
稱名寺(東京都)
岡 玲
小坂 達尚
内藤 良照
白川 了信
佐和田美希
武藤 幸久
常通寺(東京都)
松崎 美弥子
清水直次郎
金五万円
清水直次郎
金式拾萬円
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)
西教寺(胆振組)
本念寺(後志組)
照覚寺(後志組)
真龍寺(後志組)
光寿寺(後志組)

四月六日以降の完納者
ご尊名は次号以下に順
次掲載致します。

(敬称略)



広 報

日帰り研修のご案内

日帰り 白老ポロトコタン見学 いちご狩りと温泉の旅

今年も小樽別院門信徒の交流並びに、親睦を深めることを目的として「白老・洞爺湖方面日帰りバス旅行」を企画いたしました。

つきましては、下記の要項にて実施いたしますので、お誘い合わせの上ご参加いただきますようご案内申し上げます。尚、詳しい内容及び参加申し込みは、別途お知らせいたします。

小樽	貸切バス	高速道路	白老ポロトコタン	登別万世閣 (昼食・入浴)	洞爺湖農園	中山峠	小樽
8:00			10:00 11:20	13:00 15:00	15:30 16:20		18:30

- 期日／平成16年6月27日(日)
- 参加費／大人:3,000円(中学生以上)・子供:1,500円・3歳未満:無料(3歳未満で座席をご希望の場合、子供の参加費を申し受けます。)
- 募集人員／135名

連続 百日参拝のお知らせ



今年も例年の如く晨朝百日参拝を行います。
皆様お誘い合わせの上御参拝下さいませ。

☆5月1日(土)～8月8日(日)☆
毎朝6時半から一時間程度です。

特に申し込みは必要ありません。
お気軽にお参り下さい。

株式会社 日本旅行

北海道 小樽支店

小樽市稲穂2丁目22番4号
☎ 0134-33-4455

(社)日本旅行業協会会員

N.T

毎度御引立を賜り、誠に有難うございます。
今後共よろしくお願い致します。

総合燃料・長府ボイラー
官工事業・北海道許可登録703号

高橋燃料商事(株)

小樽市稲穂2丁目7番18号
☎ 22-2188
FAX 33-7800

生花を使って花祭壇

札樽葬祭(株)

TEL 34-0444
奥沢1-16-2

花の店 カトリア(有)

TEL 23-6487
奥沢1-17-3

ご案内

お 晨 朝

毎日 午前6時30分

常 例 布 教

毎月7日~11日 午後1時30分
13日~16日 午後1時30分

仏教青年会

毎月1回 午後7時30分

仏教婦人会

毎月15日 正午(おときあり)

仏教壮年会

毎月6日 午後7時

おつとめしま専科!

毎月2回(火曜日) 午後2時

ボーイスカウト

毎月1回(土曜日) 午後2時

日曜仏教講座

毎月1回(第3日曜日)
午前9時30分

十 九 日 講

毎月19日 正午(おときあり)

各説教所の案内

●奥沢説教所

樹心会 5日 午後7時
唯信講 10日 正午

●若竹説教所

彰心会 7日 午後7時

●緑説教所

無量講 9日 午後6時

●新光説教所

法友会 13日 午後6時

初参式

今年も親鸞聖人の降誕会(5月16日)に併せて初参式をとりおこないます。

対象は生後百日ぐらいから三歳までの幼児で、式は短時間で終わります。記念品もご用意させて頂いておりますので、お気軽にお申し込み下さい。



お申し込み
別院寺務所
(22-0744)
別院職員まで

日曜仏教講座のご案内

- ★ 毎月第3日曜日
- ★ 午前9時30分~(約1時間)
- ★ 講師 双葉高校教諭
櫻井法道先生

※親鸞聖人をはじめ浄土の真実の教えを明らかにされた方々のおこころを、わかりやすく解説していただきます。



●お問い合わせ●
別院(22-0744)の
磯村まで、ご連絡下さい。

●3分間の心のともしび

小樽別院 **テレホン法話**

24時間
いつでも
どうぞ

TEL 27-1616



十人十声

●後生



武藤 二孝

蓮如上人は教えられます。「私は今は幸せだから仏さまなど頼る必要はない。私はまだ若いから仏教などまだ関係ない、と思う人が多いが、自分の人生はお念仏の鏡に映して初めてよく分かるのです。自分のことはよく分かっていると思いついて油断していると、真つ暗闇の中に突き落とされますよ」と。

私たちは時代の最先端で活躍し、あらゆる情報をつかかっているつもりですが、たつた一つ、全く分かっていないものがあります。それは「自分自身」です。小さい時から自分の回りを正しく知り、それに正しく対処するための知識や技能の習得は怠りなくやってきました。世渡り上手になっています。自分の回りの他人に対し、よいとか悪いという判断をします。つまりそこに自分自身がない、傍観者、評論家になっていないでしょうか。私たちは、自分の人生をよく分かっているような気がしているが、本当は何も分かっているような気がしていません。どうなるか分からない無常の命であるにもかかわらず、もうかかった、損した、負けたり、どうでもよいことに一喜一憂しているのは、他ならぬ自分自身ではなからうかと思つてあります。蓮如上人は「後生を見失うな」と教えられます。あらためて深く、自分のこととして頂いていきたいと思つています。

合掌

●帰命



磯村 真一

別院では毎朝六時三十分からおあさじ(朝の勤行)があり、ご門徒の方々と共に「正信偈」のお勤めをいたしております。

この「正信偈」の最初に出てきます「帰命」には、如来を中心とする約仏積と衆生を中心とする約生積の二つの立場があります。約仏積の立場からすると「帰せよノ命」という意味で、阿弥陀如来のご本願に帰せよとの本願召喚の勅命であります。約生積の立場からすると「命二帰スル」という意味で、阿弥陀如来のご本願に帰依すること、私達衆生がご本願に信順して疑う心のない信心、つまり安心のすがたをさしたものと云えます。

このように「帰命」を積するには、約仏と約生の二面観からなされていることは、衆生と仏とがまったく不離不二の關係にあることをしめしたもので、阿弥陀如来のご本願の勅命に信順して少しも疑う心のない無疑一心の信心をしめしたものと云うことができます。

阿弥陀如来のご本願は、他人事ではなく私達自身の手事です。どうぞ、私事と思ひ別院のおあさじに足を運んでください。

●そのままのおすくい



温井 卓生

身では行つてはならないことを行い、口で言つてはならないことを言い、心で思つてはならないことを思つて、こ

んなつまらない私をおすくいださる阿弥陀如来様と、よろこんでいる人がいますが、私はあまりにも身勝手な受け取り方だと思います。勝手気ままな人間が、自分の勝手気ままを全部許し、勝手気ままにふるまって、よろこんでいる困つた、まわりの人にとっては、どうにもならない困つた存在ではないかと。これは阿弥陀如来様の「そのままのおすくい」を、横着者が自分の横着に合わせて受けとめた結果でしょう。本願寺九代目の実如上人は、「仏法のこと、我が心に任せず、たしなめと御掟なり。心に任せては、

さてなり。すなわち、心に任せず、たしなむ心は他力なり」と、たびたび御注意くださいました。

どういうことかと。私の父であり、師である蓮如上人は、仏法の日暮は、自分のお粗末な心のおもむくままに任せて、勝手気ままに振る舞う日々を送ることでなく、お粗末な自分を知らされれば知らされるほど、気を引き締め、たしなまねばならないと言われました。私もその通りだと思つています。

自分のお粗末な心のおもむくままに日を送つたら、手のつけようがありません。勝手気ままな心に日々の生活を任せず、気をつけて慎んでいこうという心が、阿弥陀如来様の真実に遇つて生まれできます。と実如上人は私たちにご注意くださいくださったのです。

●父の願い



猪口 大悟

法然上人は一二三三四年四月七日、現在の岡山県久米郡稲岡に生まれ、幼名を勢至丸と言いました。お父さんの漆間

時国はその土地の領主で仏教の信仰厚い方でしたが、ねたみから、明石の豪族の源内定明に夜襲をかけられました。当時十三歳であった勢至丸は、たまたま叔父のうちに居たのでありましたが、この変事を聞いて、取るものも取りあえず駆けつけてみると、源内は既に引き上げて、お父さんは瀕死の重体でありました。勢至丸は父の手を握りながら、

「お父さん御安心下さい。私はどんな困苦に耐えても憎い敵を打ち果し、お父さんの恨みを晴らします。」

と言つた時に、父、時国は苦しい息の中から「恨みに報いるに恨みをもってしては恨みの消ゆる時がない。お前はこの断ちがたい恨みを断ち切つて、敵も味方も平等に救われる仏の道を求めよ」と、懇々とさとされて亡くなりました。その後、勢至丸は出家し、比叡山において當時の天台宗の碩学に次々と教えを受け、天台宗だけでなく、法相宗、三論宗、華嚴宗などの教えも幅広く学び、人々からは「智慧第一の法然房」と尊敬される比叡山きつての学僧となりました。やがて相次ぐ戦乱に人心は荒廢し、比叡山も名利追及

の場となつていきましたが、法然上人は必死になつてまことの仏道を探求し続けました。

三十四歳から十年間、黒谷の報恩蔵にこもり、一切経一万二千巻を五回も繰返し読み、ついに善導大師の著書「散善義」のなかの「一心に弥陀の各号を専念して、行中座臥、時節の久近を問はず、念念に捨てる者は、これを正定業と名く、彼の仏願に順ずるがゆえに」という言葉に出会いました。

「もつぱらふた心なくお念仏して、その姿形にとらわれず、また時節の長い短いを問わずしてお念仏を相続するならば、これによって正しく浄土に生まれることができる。なぜならば、このお念仏は衆生を必ず救うという阿弥陀仏の本願によるからである。」

源空上人はこの言葉によって、南無阿弥陀仏のお念仏の教えによって、必ず救われる身であることに気づかされたのであります。上人四十三歳のときです。

●レストラン



渡部 恵

最近、札幌だけでなく小樽にもおしゃべりなレストランが増えてきたように思います。ところでレストランを日本語に訳せば食堂となり、文字通り食事をす

る場所という意味になります。この食堂は仏教語で、お釈迦さまの時代からあったそうです。ただ仏教ではこれを「シヨクドウ」と言わず、「ジキドウ」と呼んで、七種のお堂(伽藍)の一つだったそうです。

禅宗では、浴室(風呂)・僧堂(食堂)・西浄(便所)を三黙堂といひ、話をしてはいけない場所ということ。仏道修行の立場では、食事も大切な修行の一つなので、今でも禅寺の食堂では、規律の厳しい厳粛な場所となっているそうです。

私の家では食事をする場所は家族の団らんの場合、いつも話し声が絶えませんが、私には厳しい修行は無理ですね。



みんな

仲良し

小樽幼稚園



～まこと(いのち)の保育を行ないます～



当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」などを育てるよう保育に努めています。

又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に2・3回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

現在も途中入園を受付しておりますので宜しくお願い致します。

(年中見学可能です。是非一度見学にお越し下さい。)

- ☆**保育時間** → 月曜日～金曜日(8:40～14:00/冬時間<11月～>8:40～13:30)
- ☆**昼食** → お弁当～週3回 / 給食～週2回(パン食/米食)
- ☆**預り保育** → 月曜日～金曜日(17:30迄)行います。(15:00迄は無料/降園バス有)
- ☆**プール遊び** → 年間を通して、週1回温水プール遊びを行っています。
- ☆**英会話** → 月2回年長のみ行います。
- ☆**送迎バス** → ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。
- ☆**主な行事** → 花まつり・降誕会・運動会・海水浴・親子遠足・バス遠足・いも掘り・報恩講・お遊戯会・おもちつきなど。
- ☆**ならし保育** → 満2歳以上、就園未満のお子さんを対象に、火曜日クラスと木曜日クラス(毎週各1回)保育します。
(いちご組)

平成16年度は、5月よりスタートします。

※詳しくは、入園案内をごらん下さい。

園児募集

途中入園可能

- 募集園児 3歳児(H12.4.2～H13.4.1生まれ)20名
- 4歳児(H11.4.2～H12.4.1生まれ)50名
- 5歳児(H10.4.2～H11.4.1生まれ)30名
- 願書受付 途中入園受付中です。

※事前に御連絡下さい。



学校法人 小樽龍谷学園

小樽市若松1丁目4番17号

小樽幼稚園 TEL/FAX **0134-22-6536**